



介護福祉の問題

理事長
平
良

クラーク学園には、児童福祉を主とした、和泉短期大学と共に、高齢者の福祉を担う者を育てる和泉福祉専門学校があります。

この専門学校は将来の福祉の仕事を高齢者に対しても向けられるべきであると考えて一九八五年に開校されたものであります。当時はこのような担手を養成する学校もなく外國の事例を参考にしながらカリキュラムを組み、同じ志を持つた数校と共に日本で最初の老人福祉専門学校として発足しました。その頃は介護福祉士といった資格もなく、その仕事に奉仕したいといった気持ちを持つた人々から始まつたものです。従つてその後発足した介護福祉専門学校は少なからず先発校をモ

デルとして開設することになり、介護福祉士といった資格は後になつて与えられることになりました。

日本ではじめての高齢者福祉のための教育機関を発足させた、クラーク学園を担つていた先輩の決意を尊敬いたしております。

私は専門学校における教育を見ていて、卒業生が接触する方々が高齢者であるにもかかわらず「高齢者とはどういった者か」といふことが教えられていないことを不思議に思つた。児童保育や幼児教育に当つては少なくとも子どもとはどういう者であるかについて「幼児心理学」のような講義が行わ正在りるのに、高齢者についてはそのような配慮がされていない。

高齢者はその経験をふまえて人格が形成されて来ているものであって、その人格は多様であり一般化することは困難であるにちがない。しかしながら現在の高齢者がどのような歴史を担つて来ているかを知つておく必要はあるのではないかと思つてゐる。

そのようなことから今、ケアを必要としている高齢者がどのような歴史を担つて来て い

は、学事として、創立記念礼拝、昇天者記念礼拝、クリスマス特別礼拝に加えてイースター特別礼拝を新たにもうけ、学生たちに参加を呼びかけています。自由参加の礼拝を続けており、毎年学期末にむかって出席者減少傾向はあるものの、毎週出席している学生も見うけられ、学生たちに励まされています。

宗教部報告

宗教部長 中島 弘光

の御言葉のように、和泉に学ぶ学生一人一人が、イエスキリストの示す愛の泉から豊かな福音保育マインドを汲み取り、次代を担う幼子たちに平和の尊さも教えられる、「神の子」と呼ばれるような保育者に育つてほしいと願っています。和泉の「和」という一字は、そのような思いも込められて いるのではないかと思つて います。

泉のハンドベルクワイアの伝統を守るべく新しい指導体制でスタートしています。

るかといった「私の老人論」とでも言う講義を専門学校の学生に話をすることにした。その結果現在の七十才以上の者は、戦争と一九六〇年頃からの経済成長を通して、自分達が予想もしなかった時代になつていることを自らも認識し、学生諸君にも多少の理解をえられたと思っている。大正の最後の年に生まれた私としては、私の世代を現在の若者に理解してもらう努力をすることが必要ではないかと思つてゐる。

ハンドベルクワイヤー育ての親とも言える指揮者下田教授が昨年度をもつて退職され、現2年生は指揮者なしの活動を続けています。また、新1年生のチームが形成されつ

A photograph of a choir in red robes singing in a church. The choir is positioned on a raised platform, and a man in a blue suit stands to the right, conducting them. A large pipe organ is visible in the background.

「平和を実現する人々は、幸いである。」
その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書、五章九節)

2004年7月20日
発行人：平 良
編 集：入試広報課
発行所：学校法人クラーク学園
〒229-8522
神奈川県相模原市青葉2-2-1
電話 042(754)1133

論 042 (784) 1100

042 (784) 1100

和泉短期大学

自律性をもつた自立を



学長 伊藤 忠彦

子どもの保育、教育だけではなく、子どもとの保育、教育に従事する保育者の養成においても、私たちには、もっと真剣に「自立」だけでなく「自律」ということを考えなければなりません。私たちには、自分たちが親を通じて力をつけて、子どもたちが親をはじめとする種々の援助や支配を受けずに、自分で生きることができるようになる、自立して生活できるように育てる、これは何よりも大切な私たちの大人的責務です。

しかし、この子どもの自立への援助の過程で私たちの関心は、つい自立できる力、たとえば学歴をつけるとか、資格をとり技術を身につけるといったことに過度に向かって、しばしば、自立して生きる時に助けとなる自律の力を身につけること、すなわち、自分の内面にある感情や激しい衝動を自制する、コントロールする力の大切さ、またその力の養成の必要性を軽視しているといつても過言ではありません。子育ての問題にいつも適切な助言をしてき

たある精神科の医師が、子どもが健全に育つための幼児期の必要不可欠な主題として「自律」をあげています。私たちは自己実現の為の人生と信じてやっても、誰もがその願望を打ち碎く強い力に繰り返し直面せざるを得ないのです。おそらく、その様な状況は昔も今も、また将来も変わることがないでしょう。そうであるからこそ、私たちはこの自分の自己実現を邪魔する対象に抱く内面の憤りや復讐心といった激しい感情や衝動を、内面に形成されるなんらかの規範や法則によって抑制し、立ち直って新しい歩みへと踏み出すことができるのです。

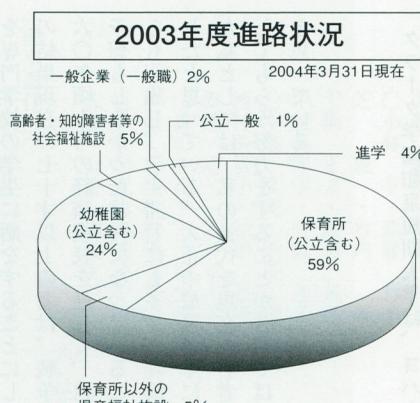
この文章を書いている今、長崎で小学6年の少女が同級生の女の子を給食時間に呼び出して殺害するという事件が報道されています。殺害の動機はまだ明らかではありません。加害者の少女はどんな理由からか、心にむくむくとわいてきた激しい殺意の衝動を抑えることができなかつたのでしょうか。

私たちの保育、教育の大きな目標の一つは子どもたち、生徒や学生の自立への道を援助することにあります。しかし、家庭や学校で自律性が育たないまま、反省や抑制なしに行動に駆り立てる力を抑え込む力が育たないまま、ひと通りの知識や資格を手にして自立していくだけであるとすれば、私たちの保育や教育はそれで良かつたとは言えないのです。

総務省が発表した本年4月1日現在の子どもの数(15才未満人口)によると、子どもの数は1781万人で、前年より20万人減少し、過去最低を更新した。減少は23年連続で、総人口に占める割合も前年比0.2ポイント減の13.9%と30年連続低下し、過去最低を更新、「少産」傾向はまだ続くと見られるが、保育所の待機児等の諸問題や採用に関する雇用形態の変化、既卒者の転職数の増加なども含め、今後就職指導に影響を与えるのは必至の状態となっている。しかし、本学においては、本年3月の卒業生353名のうち、保育福祉職として275名(78%)が就職し各分野でのこれから活躍が期待される。

短期大学進路状況報告

**福井昭雄教授より
絵画が寄贈される!**



学生ホールが2002年9月にリニューアルされた際、本学から福井昭雄先生に絵画寄贈のお願いの申し出をしたところ先生より早くお引き受けいただき、ホールに相応しい絵画の制作に取り組まれ2003年3月13日に3点の絵画の贈呈が福井元教授より本学にされました。

先生の絵画は、「生成の森」と題して、森から鳥が巣立ち飛び出して行く素晴らしい構図と色合いの絵画です。先生は、和泉の学生が社会に巣立て行く姿を絵にされたもので、樹々の緑、鳥のさえずり、自然是日々の変化の中で私達を新鮮な感動を与えてくれる絵です。

平成15年度会員校教職員表彰

社団法人全国保育士養成協議会より、永年にわたり保育士養成に尽力貢献をした者を対象とする平成15年度会員校教職員表彰者として、2003年12月20日、本学より中島弘光教授が表彰されました。

1975年	1980年	東京生まれ
1957年	1980年	東京学芸大学美術科卒業(幼稚園、小学校、中学校等で講師を勤める)
1990年	1990年	社会事業大学、跡見学園短期大学等で非常勤講師
2002年	1990年	和泉短期大学助教授
2002年	1990年	和泉短期大学教授
2002年	1990年	和泉短期大学退職
2002年	文教大学教育学部教員	文教大学教育学部教員

本学園に勤務しての思い

図書館長



学生の主体的な学びと育ちを願つて

実習・ボランティアセンター長



藤川

伊藤美佳



和泉と出会えたこと

本年4月より、短期大学に専任講師として勤務させて頂くことになりました伊藤美佳と申します。

この度、専任講師として勤務することとなりました。発達心理学、保育臨床（カウンセリング含む）、教育心理学、総合演習、そして保育実習を担当します。また、保育の教科書

本学園・短期大学に勤務して二十年以上も経過した。勤め始めたのは一九八〇年頃であります。振り返ってみると、この間に学園内は必ずい分と様変わりしている。二十年程前の学園内、例えば各教室は夏の暑い時期にもエアコンがなく、また教材用ビデオ装置もなかつたのである。それに比べると今は、それらの機器・備品があり、他の必要な物も徐々に備え付けられつつあるという状態である。今、体育馆も建設途上にあり、完成が待たれるとうのも喜ばしいことである。

さらに本学園に必要な物はないかと思いをめぐらすならば現在、短大・本館内にある図書館は蔵書量、書庫数その他の点で限界に達

している。それで、もっと広大なスペースの図書館が必要になっている。現状よりも大規模な図書館はいずれ実現する予定になつております。その実現の日が早く来るといふと思っている。それから本学園に就職して以来、自分の専門領域（臨床心理学）の立場で学園を見渡して、た時、学生相談室のないことが何とも気になつてゐるものである。今、学生相談室はさやかではあるが設立され、学生のために機能し、利用されているのは良いことである。最近は社会人入試制度があり、また四年制大学卒の学生もいて、学生たち全体の実態は実に多様であるということができる。すべての学生たちが学生生活に満足して卒業してほしいと願うしだいである。

經理課長代理
田 中 孝 一



十五年前のことを振り返りますと、大学四年の就職活動のことが思い浮かびます。当時は、一般バブル景気の最中で現在では考えられない程、企業に内定を決めていました。その中で教育機関を就職先として選んだ理由は、学生の頃から、

大学窓口での職員の方の働きぶりを拝見していく中で、職員の立場として学生生活のサポートをする仕事に就きたいと思い、和泉短期大学の職員として、勤めることができました。この十五年は、総務課、学生課を経て、現在は、経理課に所属をしています。

実習やボランティアに取り組むための動機づけと情報提供は特に重要な役割であると言えます。また、個々の学生が必要とする支援内容の把握に努め、きめ細かな対応を心がけています。さらに、実習先・ボランティア先との連携は、今後一層力を入れて取り組まなければならぬ課題であると認識しています。

しかし、私たちがやるべきことの中心はあくまで「学生が自ら学び育つための支援環境づくり」です。実習とボランティア活動の支援を通して、学生自身の学び育とうとする意思を育み励ますことができなければなりません。これを中心に据えて、諸々の日常のセンター業務を有機的に関連づけ、点検していくことが大切であると考えます。

（略歴） 私自身も、成長していくことができるよう日々努力していきたいと思っておりますので、これからどうぞ、よろしくお願ひいたします。

が現場に出た時、子ども達の事を第一に考え
ることができる保育者になつて欲しいと願つ
ております。

聖和大学大学院教育学研究科幼児教育学専攻博士前 期課程修了
1998年4月～2001年3月
学校法人神童学園神童幼稚園勤務
2001年10月～現在
聖和大学大学院教育学研究科幼児教育学専攻博士後 期課程在学中
2002年4月～2004年3月
宗教法人日本基督教団大和キリスト教会ナーセリー スクール勤務

教職員、学生の皆様から学びながら、私自身も成長できたらと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

粹な気持ちが更に向上するような、福祉・保健の学びに少しでも役立てるよう努力したいと思います。

これから先、十才才口の潮流其を迎え知
期大学の置かれている立場は非常に厳しさを増
します。このような時期を迎えるに当たり、私
は、大学職員の立場でしかできない役割を認識
して仕事をおこなつていきたいと思います。



和泉福祉専門学校

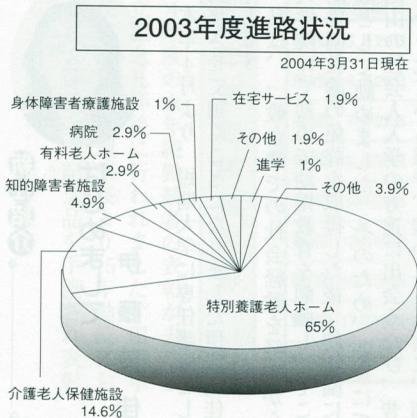
心の扉を開こう

校長 宮本 和武

専門学校進路状況報告

作文コンクールを実施

青少年の介護への関心を高めるための公益的活動として昨年初めて作文コンクールを実施した。本校が主催し、相模原市教育委員会と和泉短期大学に後援して頂いた。テーマは「私の大好きなおじいちゃん、おばあちゃん」。中学生及び高校生から1,242編の応募があり、8名の入賞者を表彰した。今年は「わたしのボランティア体験」をテーマに8月1日から9月20日まで募集し、10月30日の千寿祭当日に表彰式を行なう。昨年以上に愛と情熱に溢れた作品が寄せられることを期待している。



わが校の就職指導体制は担任がひとり一人の学生と面接し学生が納得して就職できるよう指導しています。また先決優先の原則を徹底するために事前の施設訪問を必ず行ってから試験に臨むよう指導しております。

特別養護老人ホーム68パーセント、介護老人保健施設に15パーセントと例年と同じ割合で就職し、障害者施設には例年より多い6人の学生が就職できました。

今後は株式会社の経営する介護型の有料老人ホームやN.P.O法人のグループホームなどに就職をする学生も増えると思われます。いずれの場においても本学で学んだ「愛と奉仕」の精神の実践である事を願っています。

宮本和武校長
〔論文〕
・共著
「里親制度の現状と課題（Ⅲ）グループホー
ムの現状と課題（2）」
【日本子ども家庭総合研究所紀要】第40集
日本子ども家庭総合研究所一二〇〇四年三月
〔学会発表〕
・共同
「グループホームに関する研究」
日本子ども家庭福祉学会 第4回全国大会
二〇〇三年六月
・単独
「成年後見制度は機能するのか—権利擁護と
しての成年後見制度の活用—」
第41回全国知的障害関係施設職員研究大会
二〇〇三年九月

宮下富士子專任教員
〔共著〕
・介護福祉士選書「

宮下富士子専任教員
〔其著〕
・介護福祉士選書「介護福祉概論」建帛社
下西潤子専任教員
二〇〇三年五月

〔第16回介護福祉士模擬試験 形態別介護技術 問題並びに解説〕
〔介護福祉士国試対策〕 医学評論社
二〇〇三年九月
「学会発表」
共同 「利用者の自立を目指す移乗技術を学ぶ」

いる。養成校は、教育に携わる専任教員の介護教員講習会（300時間）の実施（平成18年度より教員資格要件に加わる）と、国家試験の実技試験を免除する介護技術講習会（32時間）の実施が計画されている。（平成17年度実施で、実技試験か講習会かを選択する仕組みである）さらには、近い将来は養成校卒の国家試験導入も検討の段階に入ってきている。入学式に新入生に3つの聖書のことばを贈
水はその人のうちで泉となり永遠の命に至る水がわかる。」校名の「和泉」の根拠である。キリストが与える水は「いのちの水」であり、その人々のうちで枯れることなく溢れるものである。本校の学生は、介護福祉士として介護を必要とする人々の傍らにいて、希望を失っている人々にいのちの水を与える専門職者を目指し、志しを新たにし2年間の学びに励まれることを期待する。

いる。養成校は、教育に携わる専任教員の介護員講習会（300時間）の実施（平成18年度より教員資格要件に加わる）と、国家試験の実技試験を免除する介護技術講習会（32時間）の実施が計画されている。（平成17年度実施で、実技試験か講習会かを選択する仕組みである）さらには、近い将来は養成校卒の国家試験導入も検討の段階に入ってきている。

水はその人のうちで泉となり永遠の命に至る水がわきでる。」校名の「和泉」の根柢である。キリストが与える水は「いのちの水」であり、その人々のうちで枯れることなく溢れるものである。本校の学生は、介護福祉士として介護を必要とする人々の傍らにいて、希望を失っている人々にいのちの水を与える専門職者を目指し、志しを新たにし2年間の学びに励まれることを期待する。

一〇〇三年度 短期大学教員研究業績

- 武石宣子教授
〔著〕
「新版 レクリエーション援助法」
建帛社
〔著〕
「リトミック研究の現在」
共著
「開成出版」
- 〔学会発表〕
「音楽療法の連想キーワードを読む」
日本音楽教育学会第34回大会
二〇〇三年十月
- ・単独
「リトミック教育のルーツを探る」
日本ダルクローズ音楽教育学会第3回大会
二〇〇三年十一月
- 中島弘光教授
〔芸術活動〕
「日本基督教団小田原聖十字教会チャペルコンサート
ハンドベル、合唱（クワイア）」
二〇〇三年十一月
- ・出演
日本聖公会小田原聖十字教会クリスマスコンサート
二〇〇三年十二月
- ・出演
公民館祭 合唱
二〇〇四年三月
- ・出演
公民館祭 ハンドベル
二〇〇四年三月
- 中村美津子教授
〔論文〕
「保育士資格の研究」→政令資格から法律資格へ その本質を探る
全国保育士養成研究大会
二〇〇三年九月
- 〔学会発表〕
「保護者に対する保育に関する指導」アン
ケート調査
保育士資格の研究 →政令資格から法律資格へ その本質を探る
全国保育士養成研究大会
二〇〇三年九月
- 〔その他〕
「川崎市における評価項目」
川崎市の保育所における第三者評価制度のあり方（意見具申）
二〇〇三年十一月
- 原田康子教授
〔学会発表〕
「保育園における特別保育のあり方とその意義について—S保育園の実践—」
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月
- ・共同
「保育園における、講師による特別保育のあり方とその意義について—S保育園の実践—」
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月
- 櫻井奈津子助教授
〔著〕
「保育士をめざす人の養護内容」辰巳 隆・岡本真幸編著
みらい
「新版・養護原理」網野武博・柄尾勲編著
チャイルド本社
二〇〇三年五月
- ・共同
「里親として子どもと生活をするあなたへ」
日本児童福祉協会
二〇〇三年六月
- ・单著
「子どもを健やかに養育するため」
日本児童福祉協会
二〇〇三年六月
- ・单著
「里親制度推進にあたっての課題」「世界の児童と母性VOL.54」
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月
- ・单著
「交換遊び」をめぐる研究 その5—交換を
- 佐藤守男助教授
〔芸術活動〕
「第77回国展」東京都美術館（上野）4月23日～5月7日
「羊の門」乾漆 185×150×68 cm
- ・彫刻小品展」ギャラリー惣（銀座）8月17日～8月23日
「太鼓の影」ブロンズ 46.5×16.5×24 cm 他2点
- 「グレープ環 第1回展」→現代具象彫刻の一風景
「ギャラリーセイはう」9月1日～9月13日
「風を追うもの」ブロンズ 35.5×24×16 cm 他2点
- ・出演
「第27回国画会彫刻部秋季展」洋協アートホール
（銀座）9月22日～9月27日
「彫刻二人展」成城やまと画廊10月8日～10月26日
「彫刻二人展」成城やまと画廊10月8日～10月26日
（讃）乾漆 24×25.5×12 cm 他12点
- ・出演
「YEAR-END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES」ギャラリーセイはう（銀座）
12月8日～12月27日
「涼風 ブロンズ 15.5×10.5×9 cm
「絆—12の表現展」日本橋三越本店 1月13日～1月19日
西キヤラリー 2月24日～2月29日
新潟三越美術ギャラリー 3月3日～3月9日
秋涼 ブロンズ 23×15×10 cm 他2点
- 藤川いづみ助教授
〔学会発表〕
「保育者志望学生の体罰に対する意識IV」
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月
- ・単独
「保育者養成協議会第42回研究大会
全国保育士養成協議会第42回研究大会
二〇〇三年九月
- 久富陽子専任講師
〔著〕
「保育学入門」
建帛社
〔著〕
「育つ・広がる 子育て支援」
生活ジャーナル
二〇〇三年四月
- ・单著
「保育士養成における地域福祉の視点に関する考察」
全国保育士養成協議会第42回研究大会
二〇〇三年九月
- ・单著
「戦前期の民間社会事業とボランティア活動との分岐に関する研究」→現代ボランティア理論からみる戦前期民間社会事業の分析試行
日本介護福祉学会第11回大会
二〇〇三年九月
- 日本社会福祉学会第51回大会
二〇〇三年十月
- ・单著
「福祉教育における学校と社協との連携について（2）→福祉教育ハンドブック作成における社協の役割」
日本福祉教育・ボランティア学習学会第9回大会
二〇〇三年十一月
- 井狩芳子助教授
〔学会発表〕
「幼児の心身の健康に関する研究（第一報）」
「その1 園児の体力・運動量と生活時間」
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月
- ・共著
「幼児の心身の健康に関する研究（第二報）」
「その2 園児の遊びと感情表示」
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月
- ・共著
「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究」
子ども未来財団
二〇〇四年二月
- 鈴木敏彦助教授
〔著〕
「保育士養成課程 福祉施設実習ハンドブック」
二〇〇三年五月
- ・共著
「知的障害児者セルフアドボカシ支援ワクショナップ・テキスト」
（社会福祉・医療事業団補助事業）
プロテクション・アンド・アドボカシー研究会カナガワ
二〇〇三年四月
- 「福祉オノブズバーソン養成ハンドブック」
（独立行政法人福祉医療機構補助事業）
かながわ福祉オノブズバーソン協議会準備委員会
二〇〇四年三月
- 「福祉施設等福祉オノブズバーソン活動調査報告書」
神奈川県社会福祉協議会
二〇〇四年三月
- ・編著
「いちばんはじめの社会福祉」
樹村房
二〇〇四年三月
- ・編著
「いちばんはじめの社会福祉」
樹村房
二〇〇四年三月
- ・单著
「ボランティアコーディネートに関する一考察」
日本地域福祉学会第17回大会
二〇〇四年三月
- ・单著
「ボランティア活動希望者の質的变化とコーディネート」
日本地域福祉学会第17回大会
二〇〇四年三月
- ・单著
「オンブズバーソンの機能的活動に向けた試み」→eネットオンブズバーソン活動から
淑徳大学社会福祉学会第13回大会
二〇〇三年六月
- ・单著
「ホームヘルプサービス利用者実態と利用者のニーズに関する一考察」→平成14年度生活クラブ生活協同組合アンケート調査から
日本介護福祉学会第11回大会
二〇〇三年九月
- ・单著
「保育士養成における地域福祉の視点に関する考察」
全国保育士養成協議会第42回研究大会
二〇〇三年九月
- ・单著
「戦前期の民間社会事業とボランティア活動との分岐に関する研究」→現代ボランティア理論からみる戦前期民間社会事業の分析試行
日本社会福祉学会第51回大会
二〇〇三年十月
- ・单著
「福祉教育における学校と社協との連携について（2）→福祉教育ハンドブック作成における社協の役割」
日本福祉教育・ボランティア学習学会第9回大会
二〇〇三年十一月

井狩芳子助教授

資生堂社会福祉事業財團

二〇〇三年四月
日本保育学会第56回大会
二〇〇三年五月

発題

開始するための言葉を探る
保育士養成における「異文化理解」に関する取り扱いについて
平成15年全国保育士養成セミナー大会武石宣子教授
〔著〕
「新版 レクリエーション援助法」
建帛社
〔著〕
「リトミック研究の現在」
共著
「開成出版」〔学会発表〕
「音楽療法の連想キーワードを読む」
日本音楽教育学会第34回大会
二〇〇三年十月〔著〕
「日本音楽教育学会第34回大会」
二〇〇三年十月〔著〕
「リトミック教育のルーツを探る」
日本ダルクローズ音楽教育学会第3回大会
二〇〇三年十一月〔著〕
「日本ダルクローズ音楽教育学会第3回大会」
二〇〇三年十一月〔著〕
「中島弘光教授」
二〇〇三年十一月〔著〕
「佐藤守男助教授」
二〇〇三年十一月〔著〕
「櫻井奈津子助教授」
二〇〇三年十一月〔著〕
「藤川いづみ助教授」
二〇〇三年十一月〔著〕
「小倉常明専任講師」
二〇〇三年十一月〔著〕
「鈴木敏彦助教授」
二〇〇三年十一月〔著〕
「井狩芳子助教授」
二〇〇三年十一月〔著〕
「共著」
「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究」
子ども未来財团
二〇〇四年二月〔著〕
「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究」
子ども未来財团
二〇〇四年二月〔著〕
「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究」
子ども未来財团
二〇〇四年二月〔著〕
「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究」
子ども未来財团
二〇〇四年二月〔著〕
「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究」
子ども未来財团
二〇〇四年二月

入試日程



和泉短期大学 儿童福祉学科

〒229-8522 相模原市青葉2-2-1
TEL 042 (754) 1133

修業年限	
2年間	
取得資格・免許状	
<input type="checkbox"/> 保育士資格 <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭二種免許 <input type="checkbox"/> 社会福祉主事任用資格 <input type="checkbox"/> レクリエーション・インストラクター資格	
募集人員	
指定校推薦入学 100名 公募推薦入学 110名 専門高校推薦入学 若干名 一般入学 40名 社会人特別選抜 若干名 250名(男・女)	

公募推薦入学・専門高校推薦入学

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
2004年10月20日(水)～10月27日(水) (郵送は10月15日(月)消印有効)	2004年11月2日(火)	2004年11月4日(木)	2004年11月5日(金)～ 11月17日(水)

一般入学

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
2005年1月17日(月)～1月27日(木) (郵送は1月25日(火)消印有効)	2005年2月2日(水)	2005年2月4日(金)	2005年2月7日(月)～ 2月8日(月)

社会人特別選抜

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
2004年11月5日(金)～11月11日(木) (郵送は11月9日(火)消印有効)	2004年11月13日(土)	2004年11月16日(火)	2004年11月17日(水)～ 11月26日(金)



和泉福祉専門学校

介護福祉科

〒229-0011 相模原市大野台3-11-1
TEL 042 (753) 2311

修業年限	
2年間	
取得資格・免許状	
<input type="checkbox"/> 介護福祉士 <input type="checkbox"/> 専門士(教育・社会福祉専門課程) <input type="checkbox"/> レクリエーション・インストラクター (日本レクリエーション協会認定)(希望者) <input type="checkbox"/> 救急法救急員養成講習受講証・認定証 (日本赤十字社)(希望者)	
募集人員	
100名(男・女)	

公募推薦入学

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
2004年10月1日(金)～10月7日(木) (郵送は10月5日(火)消印有効)	2004年10月9日(土)	2004年10月10日(日)	2004年10月12日(火)～ 10月15日(金)

一般入学

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
1次 2004年11月1日(月)～11月11日(木) (11月9日(火)消印有効)	2004年11月13日(土)	2004年11月14日(日)	2004年11月15日(月)～ 11月19日(金)
2次 2004年12月1日(水)～12月9日(木) (12月7日(火)消印有効)	2004年12月11日(土)	2004年12月12日(日)	2004年12月13日(月)～ 12月17日(金)
3次 2005年2月3日(木)～2月15日(火) (2月10日(木)消印有効)	2005年2月17日(木)	2005年2月18日(金)	2005年2月21日(月)～ 2月25日(金)
4次 2005年3月3日(木)～3月15日(火) (3月10日(木)消印有効)	2005年3月17日(木)	2005年3月18日(金)	2005年3月22日(火)～ 3月25日(金)

社会人入学試験

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
2004年9月1日(水)～9月7日(火) (郵送は9月5日(日)消印有効)	2004年9月11日(土)	2004年9月12日(日)	2004年9月13日(月)～ 9月17日(金)

人事

△昇任(04.4.1)

◎法人就任(04.6.13)

△異動(04.6.13)

平理事長(任期4年)(04.6.13)

平保良(04.6.13)

布施英雄(04.6.13)

○新美和宏(04.6.13)

伊藤忠彦(04.6.13)

宮本和武(04.6.13)

佐藤公啓(04.6.13)

評議員(任期2年)(04.6.1)

石田周介(04.6.1)

新田恭平(04.6.1)

○森山みね子(04.6.1)

西村正文(04.6.1)

佐藤眞鍋(04.6.1)

○中島弘光(04.6.1)

○中島豊(04.6.1)

佐藤芝(04.6.1)

○中島敬一(04.6.1)

佐藤新(04.6.1)

管財課長代理(04.4.1)

経理課長代理(04.4.1)

総務課長兼事務局長(04.4.1)

筆頭課長兼試広報課長(04.4.1)

教務課長(学生課長)(04.4.1)

吉田耕也(04.4.1)

岡田澄子(04.4.1)

下田龍子(04.4.1)

二階堂ひさ子(04.4.1)

宮下富士子(04.4.1)

相模原歯科医師会

ソフトボーラー愛好会

関連ソフトクラブ

(50周年記念事業のために)

指定寄付金

五千円
八千円
六千円

誕生

阿部昭氏

△鈴木敏彦氏

△次女真子(03.9.4誕生)

長男志音(03.9.21誕生)

曾根チヨ氏

(短期大学教務課長吉田耕也氏)

御母堂忠子氏

(短期大学助教授藤川いづみ氏)

御祖父武夫氏

川上美智留(04.4.1)

田中孝一(04.4.1)

佐藤公啓(04.4.1)

村山徳淳(04.4.1)

吉田耕也(04.4.1)

岡田澄子(04.4.1)

下田龍子(04.4.1)

二階堂ひさ子(04.4.1)

宮下富士子(04.4.1)

相模原歯科医師会

ソフトボーラー愛好会

関連ソフトクラブ

(50周年記念事業のために)

指定寄付金

五千円
八千円
六千円

誕生

阿部昭氏

△鈴木敏彦氏

△次女真子(03.9.4誕生)

長男志音(03.9.21誕生)

曾根チヨ氏

(短期大学教務課長吉田耕也氏)

御母堂忠子氏

(短期大学助教授藤川いづみ氏)

御祖父武夫氏

川上美智留(04.4.1)

田中孝一(04.4.1)

佐藤公啓(04.4.1)

村山徳淳(04.4.1)

吉田耕也(04.4.1)

岡田澄子(04.4.1)

下田龍子(04.4.1)

二階堂ひさ子(04.4.1)

宮下富士子(04.4.1)

相模原歯科医師会

ソフトボーラー愛好会

関連ソフトクラブ

(50周年記念事業のために)

指定寄付金

五千円
八千円
六千円

誕生

阿部昭氏

△鈴木敏彦氏

△次女真子(03.9.4誕生)

長男志音(03.9.21誕生)

曾根チヨ氏

(短期大学教務課長吉田耕也氏)

御母堂忠子氏

(短期大学助教授藤川いづみ氏)

御祖父武夫氏

資金収支計算書(概要)

(単位:千円)

(単位:千円)

収入の部

科 目	2003年度 決算額	2004年度 予算額
学生生徒等納付金収入	1,006,183	988,410
手数料収入	25,126	21,350
寄付金収入	123	0
補助金収入	55,553	28,200
資産運用収入	2,339	2,000
事業収入	1,422	930
雑収入	82,421	800
前受金収入	342,190	327,400
その他の収入	152,130	286,054
資金収入調整勘定	△403,213	△341,950
前年度繰越支払資金	1,447,694	1,599,845
資金収入合計	2,711,968	2,913,039

支出の部

科 目	2003年度 決算額	2004年度 予算額
人件費支出	591,269	504,309
教育研究経費支出	187,413	218,473
管理経費支出	68,633	88,118
施設関係支出	152,588	292,323
設備関係支出	18,771	43,762
資産運用支出	80,086	95,005
その他支出	17,180	22,544
[予備費]		50,000
資金支出調整勘定	△3,817	△4,949
次年度繰越支払資金	1,599,845	1,603,454
資金支出合計	2,711,968	2,913,039

消費収支計算書(概要)

(単位:千円)

(単位:千円)

消費収入の部

科 目	2003年度 決算額	2004年度 予算額
学生生徒等納付金	1,006,183	988,410
手数料	25,126	21,350
寄付金	123	0
補助金	55,553	28,200
資産運用収入	2,339	2,000
事業収入	1,422	930
雑収入	82,421	800
帰属収入合計	1,173,167	1,041,690
基本金組入額合計	△16,106	△210,111
消費収入の部合計	1,157,061	831,579

消費支出の部

科 目	2003年度 決算額	2004年度 予算額
人件費	596,023	504,337
教育研究経費	270,638	304,061
(減価償却額)	(83,225)	(85,588)
管理経費	82,699	126,903
(減価償却額)	(14,066)	(13,472)
資産処分差額	1,433	0
[予備費]		50,000
消費支出の部合計	950,793	985,301
当年度消費収入超過額	206,268	
当年度消費支出超過額		153,722
前年度消費収入超過額	1,072,020	1,278,288
翌年度消費収入超過額	1,278,288	1,124,566

2003年度貸借対照表(概要) 2004年3月31日

資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	5,740,722	5,712,027	28,695
有形固定資産	3,605,220	3,532,585	72,635
土地	2,019,049	2,019,049	0
建物	1,203,165	1,265,608	△ 62,443
構築物	69,015	77,025	△ 8,010
教育研究用機器備品	77,795	84,680	△ 6,885
その他の機器備品	6,305	6,721	△ 416
図書	79,310	78,981	329
車両	4,620	521	4,099
建設仮勘定	145,961	0	145,961
その他の固定資産	2,135,502	2,179,442	△ 43,940
電話加入権	690	690	0
有価証券	141,000	141,000	0
奨学生貸付金	2,330	1,851	479
出資	2,803	2,799	4
減価償却引当特定資産	1,674,097	1,595,016	79,081
退職給与引当特定資産	223,066	222,066	1,000
施設拡充引当特定資産	87,495	212,000	△ 124,505
第3号基本金引当資産	4,021	4,020	1
流動資産	1,666,806	1,459,363	207,443
現金預金	1,599,845	1,447,694	152,151
未収入金	66,328	10,742	55,586
前払金	633	779	△ 146
立替金	0	148	△ 148
資産の部合計	7,407,528	7,171,390	236,138

負債の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	228,024	223,270	4,754
退職給与引当金	228,024	223,270	4,754
流动負債	360,793	351,782	9,011
未払金	3,038	3,459	△ 421
前受金	342,190	336,885	5,305
預り金	15,565	11,438	4,127
負債の部合計	588,817	575,052	13,765

基本金の部

第1号基本金	5,369,364	5,207,298	162,066
第2号基本金	94,039	240,000	△ 145,961
第3号基本金	4,021	4,020	1
第4号基本金	73,000	73,000	0
基本金の部合計	5,540,424	5,524,318	16,106

消費収支差額の部

翌年度繰越消費収入超過額	1,278,287	1,072,020	206,267
消費収支差額の部合計	1,278,287	1,072,020	206,267
負債の部、基本金の部合計	7,407,528	7,171,390	236,138
消費収支差額の部合計	7,407,528	7,171,390	236,138

2003年度決算の概要

2003年度決算が5月22日(土)開催の評議員会ならびに理事会で承認されました。

その概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、経営状態を表す「消費収支計算書」、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、財政状態を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2003年度中の全資金の流れを表示したものです。資金収入の総額は2,711,968千円となりました。これに対し、支出した資金の総額は、1,112,123千円となり、2003年度へ繰り越される支払資金(現預金)は、1,599,845千円となりました。体育館建設代金を支出しましたが、2002年度に比べて152,151千円増加しました。

消費収支計算書は、当該年度の収入及び支出の均衡状態を表すことを目的にしています。収入面では、帰属収入合計は1,173,167千円となりました。帰属収入の約86%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本学園の運営に甚大な影響を及ぼすことになります。帰属収入は、学校法人の純資産を増加させる収入です。この帰属収入から第1号基本金である学校法人を継続的に保持していくための2003年度取得の固定資産(建物、構築物、備品等)、第2号基本金としてすでに計画的に組み入れていた240,000千円から体育館建設費として支払った額を控除し、第1号に振り替えました。また第3号基本金である奨学生貸付金との合計16,106千円を控除した消費収入の部合計は、1,157,061千円です。一方、支出面は支出の大半を占める人件費は、596,023千円で人件費比率は50.8%です。教育研究経費は、270,638千円です。教育研究活動に要する経費全般について効率的な支出に努めた結果です。管理経費は、82,699千円です。法人業務及び管理部門の維持管理運営費の効率的、効果的支出を図り、経費削減に努めた結果です。消費収入の部合計は、1,157,061千円、消費支出の部合計は、950,793千円です。その結果、収支差額は、206,268千円の消費収入超過となりました。

貸借対照表は、2003年度末における当法人の資産、負債、基本金等の状態を示すものです。なお減価償却費の対象資産(建物、構築物、機器備品等)については取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。資産の総額は7,407,528千円です。2002年度に比べ236,138千円増加しました。負債の総額588,817千円を控除した純資産は6,818,711千円で2002年度より222,373千円増加しました。

和泉短期大学体育館建設



本学創立50周年事業として計画が進んでおりました体育館新築工事の請負契約が、理事会の慎重審議の結果、戸田建設・谷津建設共同企業体と締結されました。設計・監理は椎名政夫建築設計事務所が担当しています。

2003年12月25日(木)に、小川勇夫相模原市長を始め、父母会役員、近隣自治会役員、本学関係者列席の上、起工式を行いました。今年11月の竣工を目指し、目下工事が進行中です。

この建物は、廻りを住宅地に囲まれている事から、緑溢れる空地を建物周囲に取り込み、また全体の高さを廻りにあわせて極力低く抑えたりする事で、近隣住環境の向上に貢献することを目指しています。

また使いやすく経済的な建物となる様に、構造では、弓を思わせる特殊な張弦梁という工法を採用したり、外壁には打放しコンクリートや軽量コンクリート版を使い分けています。

施設は、1階は吹き抜けに面したエントランスホール、大小体育館、準備室、男女更衣室・シャワールームを設けます。

2階には、49人教室2室、インターネットカフェを思わせる学生ラウンジ、サークル室5室、木製デッキ敷きの学生テラス等が用意されます。

また外には、池を取り込んだ中庭や、蔦の絡まる学生モールが大通りに面して設置されます。施設全体は、エレベーターを含み、車椅子対応の更衣室を設置し、バリア・フリーを目指しています。

竣工後は、短大の地域に向けての新たな顔となるとともに、学生の皆さんに、新たな憩いの場を提供出来る魅力的な施設となる事でしょう。

真鍋記念奨学金

本学園設立に功績にあった、故真鍋頼一理事長からの寄付を基金として、在学中の成績優秀者に2年次の授業料の半額が支給されます。

2003年度の特別奨学生は次のとおりです。

短期大学 腰塚亮子、大杉友美、坂元愛美、鈴木彩
専門学校 玉木光一

学園祭のご案内

和泉短期大学 10月23日(土)・24日(日)

和泉福祉専門学校 10月30日(土)・31日(日)

懐かしい学舎を訪れると共に、今の和泉をぜひ観に来て下さい。
皆様のご来校を教職員一同心よりお待ち申し上げております。

2004年度オープンキャンパス

和泉福祉専門学校

開催期日	内 容	開催時間
第1回 5月29日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時00分
第2回 6月26日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時00分
第3回 7月27日(火)	入試説明・学内見学・個別相談 一日体験入学	10時00分～15時00分
第4回 8月30日(月)	入試説明・学内見学・個別相談 一日体験入学	10時00分～15時00分
第5回 9月25日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時00分
第6回 10月30日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	13時00分～15時00分
第7回 10月31日(日)	入試説明・学内見学・個別相談	13時00分～15時00分
第8回 11月27日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時00分
第9回 1月29日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時00分

和泉短期大学

開催期日	内 容	開催時間
第1回 6月19日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時30分
第2回 7月17日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時30分
第3回 8月2日(月)	入試説明・学内見学・個別相談 模擬授業	13時00分～16時00分
第4回 8月18日(水)	入試説明・学内見学・個別相談 模擬授業	13時00分～16時00分
第5回 8月28日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時30分
第6回 9月18日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時30分
第7回 10月23日(土)	個別相談	10時00分～13時00分
第8回 10月24日(日)	個別相談	10時00分～13時00分
第9回 1月8日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時30分
第10回 3月26日(土)	入試説明・学内見学・個別相談	10時00分～12時30分

指定校推薦(希望者)対象
9月11日(土) 10時00分～12時30分 入試説明・学内見学・個別相談

一月 17日 2004年度の永年統勤続者の表彰が去る5
経理課長代理が、平理事長より15年勤続における表彰状および賞金、記念品を手渡され表彰されました。

永年統勤続者表彰

2004年度予算の概要

学校法人会計基準に基づく予算には、資金取支予算書と消費取支予算書とがあります。

資金取支予算書の資金収入の部合計は、2,913,039千円で、資金支出合計1,309,585千円との差額である1603,454千円が次年度への繰越支払資金(現預金)になります。前年度繰越支払資金より3,609千円の増加の見込みです。

消費取支計算書の帰属収入合計は1,041,690千円です。基本金組入額は210,111千円で消費収入合計は831,579千円です。これに対して消費支出は、985,301千円となり、153,722千円の支出超過となります。

財政の見通しについて

少子化による18歳人口の減少や受験生の4年制大学志向、長引く経済不況、規制緩和等、高等教育機関である短期大学を取り巻く環境は、年々厳しさを増して、私学大競争の時代となり、短期大学の半数近くが定員割れの状態です。本学園でも教育研究活動の維持向上と全般的な支出の削減とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図らなくてはなりません。

2004年度は、施設設備の整備として体育館建設、体育館用什器備品、短大校舎屋上等防水工事他、2006年度の学園創立50周年に向けて記念事業が図られております。

このようなことから、学園の環境整備充実のために将来にわたり支出要因は多く、さらなる飛躍を目指して、今後とも教職員一人ひとりがコスト意識を持ち、一層の合理的・効率的な支出に努めてまいります。2004年度の私立学校法の改正により財務公開の制度化や第三者評価制度の義務化などにより、社会から本学に求められている社会的使命を全うし、高等教育機関の理念である教育・研究・社会貢献をすべく、健全な運営に取り組んでおります。